

オレハジ通信 Vol.20

さ さ き
佐々木まゆみ市議会活動レポート

2017年 11月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ
仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

地域の皆様との交流を糧に 防災・教育の振興に全力で取り組みます。

秋は例年、運動会・秋祭り・芋煮会等各地で様々なイベントが開催されます。本年も各地域の会場にお伺いし地域の皆様と交流させて頂き、たくさん元気を分けて頂きました。

9月には、公明党仙台市議団の体制が新たになりました。菊地昭一議員が市議会副議長に就任、嶋中貴志議員が会派の団長に、鈴木広康議員が幹事長にそれぞれ就任。新体制で迎えた第3回定例会は、先の市長選で選出された新市長のもとでの初議会となり、私も一般質問に立ち、新市長へ今後の市政について質疑させて頂きました。(詳細は中面)

議会人事が有り、新たに常任委員会・市民教育委員会の副委員長、調査特別委員会・防災・減災推進調査特別委員会の副委員長の任を拝しました。市民の皆様が安心安全な生活ができる環境整備の構築のため一層努めてまいります。

一昨年3月に開催された第3回国連防災世界会議にて、「世界防災フォーラム／防災ダボス会議@仙台」が隔年で開催されることが決定しました。かねてより公明党仙台市議団として、仙台のシティセールス、東日本大震災の風化に抗うという課題解決の一つとして隔年の開催を求めて参りました。いよいよ本年11月25日から28日まで本市にて開催されます。

国内外から産・官・学・民の防災関係者が仙台に



鶴ヶ谷元気まつり会場にて

集まり定期開催することにより、防災の先進地として貢献するとともに、復興状況等を世界に発信することができます。仙台から防災の最先端情報を世界に発信してまいります。

師走に向けてお忙しい日々をお過ごしと思います。お身体を大切にご自愛くださいませ。

仙台市議会議員 佐々木まゆみ

さ さ き 佐々木まゆみのプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。
平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野選挙区)。
現在2期目。
【仙台市議会】市民教育委員会副委員長。
防災・減災推進調査特別委員会副委員長。

子育て支援、福祉・高齢者対策 について問う。

平成29年 第三回定例会 一般質問
平成29年9月20日

子育て支援について

【佐々木まゆみ議員】 妊娠期から子育て期にわたる多様なニーズに対応する子育て世代包括支援センター「ネウボラ」について。「仙台版ネウボラ事業の導入」についての所見はどうか。

【郡市長】 本市においては昨年度から、区役所・総合支所を子育て世代包括支援センターに位置づけ、母子保健事業における相談支援体制の強化を図っている。出産後、新生児訪問で伺う時期までの育児状況や、育児支援に関する事業のニーズを把握し、適切な支援に結びつけていくことが課題であると認識している。

【佐々木まゆみ議員】 産後ケア事業とは、助産師や専門家による母体・乳児のケアや育児相談・指導などが受けられるサービスで、ケア施設への宿泊や日帰り利用、自宅訪問などの形態がある。また国においては、今年度から産後うつによる自殺予防などを目的に産婦の健診費用への助成を始めた。本市としても関係機関との連携体制を強め、産後ケア事業の取り組みを早期に対応していくことが重要と考えるがどうか。

【郡市長】 事業の実施にあたっては、受入施設の確保やサービス提供体制の構築等の課題があるものと認識している。宮城県助産師会とは、これまでも妊娠に関する電話での相談対応を行う「せんだい妊娠ホットライン」等を通じてご協力を頂いているが、産後ケア事業の検討にあたっては連携して参りたい。

【佐々木まゆみ議員】 「さっぽろ子育てアプリ」では、スマートフォンにおいて、予防接種の履歴管理や日々のお子様の成長を記録できる「子育て日記帳」などの機能を備えたアプリを開発し、多岐にわたる情報が発信されている。情報サイト「ママフレ仙台」もアプリ化の運用をすべきと思うがどうか。

また、母子健康手帳もアプリ化してはどうか。



【郡市長】 情報発信アプリの導入について、スマートフォンの普及などに伴い、情報発信のあり方も、市民ニーズも踏まえながら対応していく必要があると考えている。本市では既に、メール配信による子育て支援情報の提供などの取り組みを行っているが、ご提案のような他都市の事例なども参考としながら、今後とも効果的な子育て支援情報の発信について、幅広く検討してまいりたい。母子健康手帳のアプリ化も併せて検討してまいりたい。

がん治療に伴うアピアランスケア 支援について

【佐々木まゆみ議員】 アピアランスとは、広く「外見」を示す言葉である。がん治療の副作用として生じる外見の変化は、治療や就労などへの意欲を低下させ、社会生活を送る上でも精神的負担となるため、外見ケアは重要と考える。脱毛に伴うウィッグや、爪・肌の変色に対応する美容法等や胸部補正具に対する活用などアピアランスケアの取り組みについてのご所見を伺う。また医療用ウィッグ(かつら)はがん医療保険の対象にはなっていない。高額な医療用ウィッグ購入時の助成が必要と考えるがどうか。

【郡市長】 仙台市では、市内11か所の病院施設に設置をされている「がん相談支援センター」において、患者さんやご家族からの様々な相談を受け付けており、各区役所・支所などにおいてもパンフレットなどを配置して、この相談窓口の周知に努めている。ご提案の医療用のウィッグへの助成など、がん患者さんの社会復帰に資する方策について、他の自治体の取り組みなどについて情報収集を行いながら、このアピアランスケアの支援のあり方について、今後検討してまいりたい。

決算等審査特別委員会

平成29年9月26日

動物管理費について

【佐々木まゆみ議員】動物との共生に向け、仙台市動物愛護協議会において協議されてきた内容について。

【動物管理センター所長】本年3月「飼い猫と飼い主のいない猫の適正ガイドライン」を策定した。その内容は、「飼い猫」の不妊去勢や室内飼育等、適正飼育の推進と、「飼い主のいない猫」に対する地域猫活動の推進を図るものとなっている。活用状況としては、パンフレットを作成し、糞尿被害等で困っている町内会への対策の紹介や、地域猫活動について理解を求めするために地域へ説明を行う際、また苦情が寄せられた飼い主に対して、適正飼育の指導啓発を行う場合などに活用している。

障害者差別解消法の観点から、補助犬の普及について

【佐々木まゆみ議員】補助犬を必要とされている方、補助犬とすでに生活されている方の人数はどうか。また補助犬を必要とされている方の相談窓口はどこになるのか。

【障害企画課長】補助犬飼料給付事業の実績は、26年度7名、27年度6名、28年度6名となっている。盲導犬貸与の相談は、申し込みは日本盲導犬協会等、国から指定を受けている法人に行うことになっており、本市で相談を受けた場合には、盲導犬協会におつなぎし、その後協会の職員がご自宅を訪問し面談を行う流れとなっている。

【佐々木まゆみ議員】公共施設等における補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)の同伴や使用についての苦情・相談件数、またその内容はどうか。

【障害企画課長】補助犬同伴に関連した苦情や相談は平成28年度は6件。その内容は、他県の盲導犬利用者が県内の宿泊施設へ電話予約しようとした際に断られた・予約した飲食店を利用する際に、事前に盲導犬の利用の話がなかったため、利用を断られた・飲食店を会場とする落語寄席の申し込みを断られた事例・盲導犬同伴でのタクシー乗車を断られた等があった。

【佐々木まゆみ議員】補助犬を同伴した行動が「お願い」

から「権利」へ大きく変わった。市民・企業に対し、補助犬の理解を深める取り組みが大事と思うがどうか。

【障害企画課長】これまでパンフレットやポスターの掲出などによる広報周知の他、シンポジウムやワークショップの開催など、補助犬の周知啓発も含め理解促進に取り組んできた。今後は本市主催のウェルフェアなどに日本盲導犬協会も参加頂き、実際に市民が補助犬に触れ合うことができる体験の機会を増やすなど、補助犬の理解を深める取り組みも交えながら、市民の理解促進に取り組んでいく。

高齢者支援について

【佐々木まゆみ議員】高齢者の方を対象に「豊齢力チェックリスト」を送付しているが、その状況や対応はどうなっているか。

【地域包括ケア推進課長】要介護・要支援状態となる可能性が高いと判断される高齢者を早期に把握し、予防・改善につなげる目的で、71歳以上89歳以下の奇数年齢の方を対象に、生活機能の状況確認を行う豊齢力チェックリストを送付している。28年度は、59,584人に送付し、9,522人から返送があった。返送されたものは職員が内容を確認し、生活機能の低下が心配される方に対しては、介護予防教室や介護予防自主グループなど本市の介護予防の主な取り組みをまとめたチラシを郵送することに加え、該当項目が多い方等に対しては、地域包括支援センターが電話等で状況確認し必要な支援につなげている。

【佐々木まゆみ議員】地域包括支援センターにおける担当圏域・相談件数は年々増加傾向にあるが、その一方でセンターの認知度は高くない。認知度を高める取り組みはどうか。

【地域包括ケア推進課長】地域包括支援センターについては、高齢者保健福祉サービスの情報をまとめている「シルバーライフ」や、今年4月にも市政だよりなどで周知を図ってきた。また、各地域包括支援センターにおいても、町内会長や民生委員など地域の方と顔の見える関係づくりの他、町内会でのチラシの回覧や、地域のイベントで相談窓口を設けるなど、工夫を凝らしてきた。今後も効果的な広報についても検討していく。



史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設

地下鉄東西線 薬師堂駅から徒歩2分のところに施設が整備されました。史跡観光地として、皆様足を運んで下さい。



第46回全国消防技術大会(8月23日)

陸上の部と水上の部に分かれており、基礎訓練と連携訓練さらに技術訓練があり、全国各地の予選を勝ち抜いた約1000名の隊員が救助訓練を競う大会です。



卓球大会(9月3日)

幸町学区町内会对抗卓球大会に参加。地域の方と汗をかきました。参加することに意義があります。来年、また頑張ります。



ラジオ収録(10月24日)

エフエムたいはくの「市議会へ行くこう!」の収録がありました。緊張の収録でしたが、発信することは大事です。



消防団特別点検(9月3日)

地域の安全・安心のために日々、活動に取り組んでいる消防団の皆様です。



仙台市総合防災訓練(9月10日)

岩切地区で開催された訓練、約600名の地域の方々が参加されエコノミークラス症候群防止体操や、子ども防災宣言もありました。



小学校記念式典

仙台市立幸町南小学校の30周年記念式典に来賓として参加しました。



ご挨拶

議会開催前に、ご挨拶をさせて頂きました。



秋祭り10月は芋煮会やスポーツ大会など、地域行事が多くあります。芋煮は大きな鍋で、前日また早朝から準備をしてくださっております。老若男女、地域の皆様の力は素晴らしいです。

